

## 7月21日、戦争させない千代田の会 伊藤真さんが講演

### 「平和憲法で戦争させない！『新しい戦前』を許さないために」と題して

7月21日、夜、新設された千代田区の万世橋区民館で、戦争させない千代田の会主催で弁護士の伊藤真さんをお呼びして、講演会が開かれた。

主催は、戦争させない千代田の会だ。安倍政権で安保法制が強行されてから、戦争する国になっていくという危機感から日本を戦争させない、そのために運動しようということで、千代田区の区議会議員有志が呼びかけて動き出し結成した。当初は、呼びかけ議員は7人だったが、4月の選挙で呼びかけた議員は2人になってしまった。今後の運動がどうなるか危ぶまれたが、戦争の足音が近づく中、戦争は止めなければならないと、毎月のリレートークや学習会など、運動を引き続き継続することになったそうだ。

伊藤真さんのお題は、今の情勢を反映して、「平和憲法で戦争させない！『新しい戦前』を許さないために」である。

伊藤真さんは、弁護士で伊藤塾塾長ですが、戦争させないために憲法9条は守っていくと運動もされている。安保法制の違憲訴訟もたかっている人でもある。だから、改憲反対の講演会にも多く呼ばれている。戦争させない千代田の会でも講演は2回目だそうである。

さて、今回の伊藤真さんの話の内容に入るが、いやはや、話のテンポが速い。3倍速と言っていいのではないか。私自身、伊藤真さんの話は何度か聞いているが、今回は、情勢が新しい戦前のようになっているせいか、特に早くなっているように思う。

今回の講演は、戦争させない、そのために憲法9条は絶対に守っていこう、共に頑張っていこうとの意気込みが感じられた。

#### 国民が政治、憲法、人権に無関心でいるうちに、この国のかたちが変わってきている

海外の見方は、「岸田首相は、何十年の平和主義を捨てて、彼の国を真の軍事国家にしたいと思っている」と見抜いているという。

実際、明らかに憲法違反である敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有、そのための税金の確保、軍事費をGDPの2%にする、世界第3位の軍事大国になることが必然であることを岸田政権はやろうとしている。まさに、戦争の準備を着々と進めているのである。

しかし、最近の憲法改正、反撃能力に関する、緊急事態条項に関する世論調査では、概ね賛成が反対を上回っている状況がある。こうした状況を、伊藤真さんは、「国民が政治、憲法、人権に無関心でいるうちに、



憲法を破壊するファシズムが近づいてきているようです」という。

続いて、「憲法は何のためにあるのか」と問いかける。

戦争している国、ロシア、ウクライナ、アメリカ、シリアなどの平和度指数は低いことを紹介。これらの国々は、130位以降だ。戦争していない日本は9位、1位は、アイスランド、2位はデンマークとなっている。

そして、憲法は、国家権力を制限して国民の権利・自由を守る法である。さらに、日本の憲法は、権力者に戦争させないことを特長としているという。国会議員、その他の公務員は、憲法を守る義務はあるが、国民にはない、政治家などに守らせる責任はあるという。



日本の憲法は、できてから 77 年間戦争させてこなかった。それまでは、明治以降、戦争の連続であった。この歴史と憲法の価値は大切だという。

### **日本の憲法の平和主義を改めて考えることが重要**

個人を戦争の道具にさせない、戦争は最大の人権侵害であり、最悪の環境破壊。だから、憲法 9 条を変えてはならない。変えると個人が尊重されない

社会、力がものをいう社会になってしまうという。

改めて、憲法 9 条では、一切の戦争を放棄し、戦争の手段を規制している、ここが重要という。それが、解釈で改憲され、憲法 9 条がないがしろにされているのが今の日本。

そして、集団的自衛権行使を可能として、自衛隊は、米軍との一体化を図っている。反撃能力を持つとしたことが、具体化されて、南西諸島に長射程ミサイルが配備されようとしている。そんな中、石垣市議会は、戦争に巻き込まれる危機感から「自ら戦争状態を引き起こすような反撃能力を持つ長射程ミサイルを石垣島に配備することを到底容認することはできない」とする意見書を昨年 12 月に、政府に出している。

こうした認識は、米軍も思っているとのこと。「沖縄の基地は中国との紛争で生き残れないだろう」、「第 1 列島線、特に嘉手納には生き残れるものは何もないだろう」と米軍関係の新聞記事を紹介。

伊藤真さんは、「これほどの大転換が憲法を無視して行われている。今、国民の覚悟が問われている」と危機感を訴える。この言葉は、私たちにも強く刺さる言葉だろう。

続けて、「憲法 9 条を変えることは、これらをすべて認めて、憲法によって正当性を与えることになりませう」という。

### **憲法 9 条について考える際、戦争の実態を知る必要がある**

軍隊は国民を守る組織ではない。軍隊が守るのは、国民の生命・財産ではなく、国の独立と平和を守るものであるという。

戦争は、最中で人が死に傷つくが、終わってからも死ぬ、戦死者よりも戦後の軍人の自殺などが多い現実があることを知るべきだと、「帰還兵はなぜ、自殺するのか」(デイヴィット・フィンケル作) という本を紹介。

「戦争とは、人が殺され人間的なものが死ぬことです」と述べた作家の半藤一利さんの言葉を紹介。

そして、伊藤真さんは、「どんな理由があっても、戦争という手段では何も解決しないのだから、憲法9条を変えるべきではない」という。

ところが、現実には、ロシアのプーチン大統領のように、未だに他国を侵略する国があるのだから、軍隊は持たなければいけない、そのために邪魔な憲法9条は変える必要があるという、現実主義を標榜する大きな意見がある。それに対し、伊藤真さんは、楽観主義はどちらなのかと反論する。

- ・ 軍隊は国民を守るものだと思う楽観
- ・ 抑止力を高めたら相手は必ず従うと思う楽観
- ・ 戦争すれば勝てる、または被害はないと思う楽観
- ・ 攻められても原発は標的にはならないと思う楽観
- ・ 敵をつくってもテロの標的にはならないと思っている楽観
- ・ 戦争になっても犠牲になるのは自衛官だけと思う楽観
- ・ 軍事費が増大しても、国民の福祉や社会保障に影響ないと思っている楽観
- ・ 日本の政治家には、米国の要求を拒否できる能力があり、軍需産業の意向や利権などには左右されないと  
思う楽観
- ・ 戦前、失敗した軍事力の統制を今の政治家ならできると思っている楽観

伊藤真さんは、訴える。

今、私たちに必要なことは、この国をどんな国にしたいのか、私たち自身が覚悟を決めること。萎縮しないで、声を上げる。戦争の悲惨さへの想像力、このままいったら、自分たちの生活がどうなるのかの想像力を働かせることが大事という。

そして、愚民政策に反対し、自立した市民になっていこうと呼びかける。

そこでチェ・ゲバラ（革命家）の言葉を紹介

ただ一人の人間の命は、この地球上で一番豊かな人間の全財産よりも100万倍も価値がある。もし私たちが空想家のだといわれるならば、救いがたい理想主義者だと言われるならば、できもしないことを考えていると言われるならば、何千回でも答えよう「その通りだ」と

最後に、伊藤誠さんは私たちに訴える。

明日の日本は、今日の私たちが創る。今を変えれば未来を変えられる。憲法の理想に現実を近づけることこそ必要。

今を生きる者としての責任を果たし誇りを持つ。憲法を知ってしまった者として今できることを、市民として主体的に行動する。そして、連帯の力に確信。

*Festina Lente*（ゆっくり急げ）慌てず、焦らず、諦めず、一歩、一歩が大切。

伊藤真さんは、以上の言葉で締めくくった。

改めて、今までやってきた憲法を守る運動の大切さを知り、戦争させてはならない、そうした覚悟を改めて持たなければならぬと思う講演会でした。（千代田区労協事務局長 小林秀治）

\*別添に、9月27日実施予定の第30回千代田平和集会のチラシを添付しています。防衛問題に詳しいフリージャーナリストの布施祐仁さんに「大軍拡・同盟強化がもたらす戦争のリスク」を語ってもらいます。

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。

\*千代田区労協通信バックナンバー／[http://www.chyda-kr.org/kuroukyou\\_news2020.htm](http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm)